
ルミナの孤城（こじょう）

秋桜百合子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ルミナの孤城^{こじょう}

【Nコード】

N7741C

【作者名】

秋桜百合子

【あらすじ】

セックスをする男女を殺し続ける二人。一人はセーラー服に身を包んだ、黒髪の美少女サヨコ。一人はたくましい肉体の心やさしい男テツシ。二人には肉体の秘密があった。それが解き放たれるとき、悲劇が起こる。

ぼんやりとした明かりの灯る部屋の隅に、ふたつの人影が見える。灯りの発光元は、二人が凝視しているパソコンだ。パソコンの画面の中には、激しく性交しあう男女の動画があつた。画質は非常に悪い。またカメラの位置は常に定点だ。どうやらアダルトビデオを見ているわけではなく、監視カメラで、リアルタイムの映像を見ているようだ。

「…おえええっ！くぶえっ」

突如、画面を見つめていた一人が、しゃがみこんだ。そして足元にあるバケツに、激しく嘔吐した。すでに消化を終えた食物が、胃液と共に、口のなかからねらねらとこぼれ落ちた。

「サヨコ、無理して見なくてもいいんだよ。何だったら、僕一人で行ってもいいんだよ」

嘔吐の後の虚脱感に、ぐったりしている、セーラー服を着た、サヨコと呼ばれた少女。ロングにした黒髪が、夜の闇のように美しく、整った顔立ちをしている。

「いいのよ、テツシ。これは、私のやらなければならないことなのだから」

心配そうに声をかけた男、テツシに、サヨコはつらそうに返事をした。テツシの風貌は、サヨコとまるで正反対だ。坊主頭で筋肉隆々、筋肉でぴちぴちになった、白のタンクトップと、迷彩柄のスポンをはいている。二人をたとえるなら、まるで美女と野獣であつた。

青白い顔のまま、サヨコはすつくと立ち上がった。

そして、パソコン横の、木製クローゼットを、バンと乱暴に開いた。開いたと同時に、ピストルの玉が数発、転がり落ちてきた。

そして中から、小型のピストルを二丁取り出し、ひとつをテツシに渡し、ひとつを自分の右手に持った。

それぞれ、弾の残数を確認する。

そして次に、サバイバルナイフをテツシにまた渡し、自分はやや大きめの麻袋を持った。サヨコはまたパソコンの画面を見つめた。画面の中では、相変わらず男女が性交をしている。それを見てまたサヨコは嘔吐し、つぶやいた。こいつら、腐ってる。そして口の中に残っていた嘔吐物を、唾と共にぺっと出した。

「行きましょう」

サヨコがつぶやくと、テツシは歩きだした。彼女もそれに続いて行く。サヨコの表情は、怒りと決意に満ちていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7741c/>

ルミナの孤城（こじょう）

2010年10月9日07時17分発行